みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。
身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場企画室　℡42-1613

一足早く盆踊り

いいたてホーム夏祭り

8月7日、いいたてホーム恒例の夏祭りが行われ、家族や地域の方々と一緒に祭りを楽しみました。

この祭りはホームの前庭にて行われ、入居者とその家族、ホームの職員らが、揃いの浴衣や仮装姿で参加、祭りに華を添えていました。

祭りでは、ＹＯＳＡＫＯＩ踊りを始め、チンドン屋や子ども神輿、はなづか太鼓、入居者たちによるカラオケ大会などが行われ、祭りを盛り上げました。

また、会場には焼きそばやかき氷などの模擬店が並び、買い求める人たちの列ができていました。

祭りの最後に行われた盆踊りには、入居者とその家族らが踊りの輪をつくり、一足早い夏の風物詩を楽しんでいました。

▲踊りの輪が広がった盆踊り

▲高野さんに贈られた感謝状

250本の竹トンボありがとう

三育幼稚園から あいの沢管理人　高野さんに感謝状

7月26日、福島市にある三育幼稚園の園児2人と教員らが役場を訪れ、「村民の森あいの沢」の管理人を務める高野靖博さんに感謝状を贈呈しました。

これは、春に「あいの沢」を訪れた三育幼稚園の教員が、高野さんの作った竹とんぼを大変気に入ったことから、高野さんが園児250人分の竹とんぼと竹の一輪挿しをプレゼントしたことによるもので、今回の感謝状は、その高野さんの厚意に対して贈られました。

高野さんからプレゼントされた竹とんぼは、7月に行われた同幼稚園の夏祭りにて親子に配られたとのこと。

贈呈式では、園児代表の伏見祐花（ゆうか）ちゃんと齋藤大翔（ひろと）くんから「竹とんぼをありがとうございました。今では上手に飛ばせるようになりました」と書かれた手紙が高野さんに手渡された後、幼稚園の教員から感謝状が贈呈されました。

感謝状を受け取った高野さんは「感謝状をいただき正直驚いています。これからもお客さんに喜ばれるように努めたいです」と抱負を話していました。

▲お礼の手紙を読む祐花ちゃんと大翔くん

もっと熱く盛り上がろう

第14回　飯樋流し盆踊り大会

残暑厳しい今年のお盆、村内各地区で盆踊りが行われました。

このうち、飯樋地区では、飯樋流し盆踊り実行委員会（細山利文実行委員長）主催による「第14回飯樋流し盆踊り大会」が、8月14日と15日の2日間、飯樋町地区と村民グラウンドを会場に行われ、多くの住民や帰省客らで賑わいました。

8月14日は、色とりどりの浴衣を着た地元の踊り子たちが、「飯樋盆唄」に合わせて街中を踊り流しました。また、この日は飯樋小学校の子どもたちによる「創作盆踊り」も行われ、揃いのはっぴに身を包んだ子どもたちが、リズミカルな音楽に合わせて元気良く踊る姿に、沿道の観客から盛んな拍手がおくられていました。

翌15日に行われた仮装盆踊りには58組が参加。テレビの時代劇やアテネオリンピックにちなんだ仮装など、趣向を凝らした仮装の列が観客の目を引いていました。

第15回目を迎える来年は、記念大会が予定されています。

▲子どもの仮装もたくさん登場

▲観客を楽しませた仮装盆踊り

▲リズミカルに創作盆踊り

体験活動で地域理解を深める

教職員のそば打ち体験

8月20日、村内小中学校の教職員がボランティアや伝統文化等の体験活動を行いました。

この活動は、小中学校で構成する村教育研究会（会長・吉田雄二臼石小校長）が、体験活動を通して地域や伝統文化の理解を深めようと教職員を対象に毎年行っているもので、今年は「いいたてホーム」をはじめ村内3ヵ所に分かれて活動を行いました。

このうち、あいの沢の「民家園」で行われたそば打ち体験には22人が参加。愚真会の会員らに指導を受けながら、手順通りにそば打ちを体験しました。

そば打ちを終えた参加者たちは、「心を込めて打つことが肝要、子どもの教育に通じるものがありました」などと感想を話していました。

▲先生たちの表情は真剣そのもの

北海道の大自然を満喫

第7回　海洋アドベンチャースクール

洋上生活や北海道の大自然の中での活動等を通して、子どもたちの頑張る力や人を思いやる心を養ってもらおうと、村が平成10年から実施している「海洋アドベンチャースクール」。7回目を迎えた今年のスクールは、7月27日から31日までの日程で行われ、村内の小学6年生75人が5日間にわたる感動体験の旅を楽しみました。

7月27日、村を出発した一行はバスで仙台港へ。仙台港からフェリーに乗船し北海道を目指しました。船内では、たくさんの料理を囲んで船上パーティーが行われ、レクリエーションゲームなどを楽しみました。

北海道到着後は、アイヌ文化を学んだり、6回目の訪問となる倶知安町の子どもたちと、まち探検ウォークラリー、バーベキュー、キャンプファイヤーを通して交流を深めました。

また、30日には尻別川のラフティング（川下り）に挑戦。羊蹄山からの雪解け水で冷たい急流の川を、子どもたちは「キャー、キャー」と歓声をあげながら、上手にパドルを操りボートを進ませました。

7月31日、5日間の体験と感動を胸に一行は、北海道の香りを漂わせ元気に帰村しました。

▲急流もなんのその。力を合わせて挑んだラフティング

▲到着式で最後のＩＫＡＳ（イカス）コール

▲フェリーで船上パーティー。ごちそうにみんな大喜び

▲アイヌの踊りを体験。うまく踊れるかな？

▲これからフェリーに乗船。ドキドキ、ワクワク

▲バーベキューを囲んで倶知安町の子どもたちと交流

▲倶知安町探検。何があるかな？